

## 音楽の風

山内 えりか

遠い昔、まだ人間が一人も居なかった頃。太陽や月、水や土や木々はもうすでにこの世に現れていました。そして、「風」もちろん、もう存在していません。

「風」の仕事は二つありました。その一つは生き物たちに生命いのちを与える事。

風が生き物の身体の中を通るとその生き物は息をし始め、生命いのちが動き出します。また、風がもう通るのをやめると、その生き物は息をしなくなり、生命いのちは終わるのです。(そういうふうになっていました。)

そして「風」のもう一つの大切な仕事は、音楽を作ることでした。作る、と言っても風が自分でもないこうでもないと考えて、音符用のワープロ(?)のキーボードをたたくものではありません。または鉛筆で音符を書いて消しゴムで消してみたり、本当にいい音になっているかどうかピアノで弾いてみたりする、というのでもありません。風が何かに働きかけ、そこに心の動きがあると音楽になって出てくるのです。木の枝や葉が歌をうたうのは誰でも良く知っているでしょう。海も川も雨もうたうし、山や岩もうたいます。紙だってカーテンだってスカート



